文教警察委員会会議記録

文教警察委員長 清田 哲也

1 日 時

令和7年6月23日（月） 午前10時00分から
午後 0時10分まで

2 場 所

第2委員会室

3 出席した委員の氏名

清田哲也、岡野涼子、麻生栄作、吉村尚久、玉田輝義、末宗秀雄

4 欠席した委員の氏名

井上明夫

5 出席した委員外議員の氏名

高橋肇、澤田友広、猿渡久子、佐藤之則

6 出席した執行部関係者の職・氏名

教育長 山田雅文、警察本部長 幡野徹 ほか関係者

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

- (1) 第66号議案については、可決すべきものと全会一致をもって決定した。
- (2) 県内所管事務調査のまとめとして、執行部から報告を受けた。
- (3) 令和6年度予算の繰越しについて、通学区域制度検証委員会による答申について、令和8年度推薦入学者選抜について、教員採用試験出願状況について及び教職員の懲戒処分について、執行部から報告を受けた。
- (4) 閉会中の継続調査について、所定の手続を取ることとした。
- (5) 県外所管事務調査の行程を決定した。

9 その他必要な事項

なし

10 担当書記

議事課議事調整班 主査 仙川正朋

政策調査課政策法務班 主査 稲垣俊和

文教警察委員会次第

日時：令和7年6月23日（月）10:00～

場所：第2委員会室

1 開 会

2 警察本部関係

10:00～10:30

- (1) 県内所管事務調査のまとめ
 - ① 特殊詐欺等の現状と被害防止に向けた取組について
- (2) 諸般の報告
 - ① 令和6年度予算の繰越しについて
- (3) その他

3 教育委員会関係

10:30～11:30

- (1) 付託案件の審査
 - 第66号議案 大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- (2) 県内所管事務調査のまとめ
 - ① 県立高校の中高一貫教育について
- (3) 諸般の報告
 - ① 通学区域制度検証委員会による答申について
 - ② 令和8年度推薦入学者選抜について
 - ③ 教員採用試験出願状況について
 - ④ 教職員の懲戒処分について
- (4) その他

4 協議事項

11:30～11:45

- (1) 閉会中の継続調査について
- (2) 県外所管事務調査について
- (3) その他

5 閉 会

会議の概要及び結果

清田委員長 ただいまから、文教警察委員会を開きます。

本日は、都合により井上委員が欠席しています。また、委員外議員として高橋議員、澤田議員、猿渡議員、佐藤議員に出席いただいています。委員外議員の方が発言を希望する場合は、委員の質疑の終了後に挙手し、私から指名を受けた後、長時間にわたらないよう、要点を簡潔に御発言願います。

本日審査いただく案件は、今回付託を受けた議案1件です。

この際、案件全部を一括議題とし、これより警察本部関係の審査を行います。

初めに、5月13日から6月4日にかけて行った県内所管事務調査のまとめを行います。執行部の説明をお願いします。

幡野警察本部長 警察本部長の幡野です。

清田委員長をはじめ、委員及び委員外議員の皆様におかれては、平素から警察業務の各般にわたり深い御理解と御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、5月13日から6月4日までの間に行われた県内所管事務調査において、警察関係施設計9所属の調査をしていただき、多くの御意見や激励を賜ったことに対し御礼を申し上げます。

本日の委員会では、県内所管事務調査のまとめとして、特殊詐欺等の現状と被害防止に向けた取組について説明します。その後、令和6年度予算の繰越しについて御報告します。それぞれについては、担当部長等から説明するので、よろしく願います。

三浦生活安全部長 特殊詐欺等の現状と被害防止に向けた取組について御説明します。

お手元の資料2ページを御覧ください。

1 特殊詐欺の現状について御説明します。

(1) 被害の推移を御覧ください。本年5月末現在、特殊詐欺の被害件数は160件、被害額は約2億4,849万円で、去年同期比で共に増加しています。

続いて、(2) 被害の特徴を御覧ください。これは、本年5月末現在における特殊詐欺被害160件の分析結果を円グラフに表したものです。手口別では、架空料金請求詐欺が半数以上を占めており、次いでオレオレ詐欺が23.8%となっています。年齢別で最も多いのは65歳以上ですが、様々な年代が被害を受けており、性別では男性が僅かに多い現状です。そして、被害金の主たる交付形態については、金融機関での口座振込が70%を占め、次いで電子マネーが23.8%となっています。

続いて、2 SNS型投資・ロマンス詐欺の現状について御説明します。

(1) 被害の現状を御覧ください。本年5月末現在のSNS型投資・ロマンス詐欺の被害は、件数98件、額にして約4億353万円となっており、去年同期比で件数・被害額共に減少していますが、被害額は億単位に上り、依然として憂慮すべき状況といえます。

続いて、(2) 被害の特徴を御覧ください。これは、本年5月末現在におけるSNS型投資・ロマンス詐欺被害の98件を分析した結果となります。まず、手口別で見ると、SNS型ロマンス詐欺の投資名目が45件、続いてSNS型投資詐欺が40件となっています。年齢別では、20歳代から60歳代まで幅広い年代が被害に遭っており、性別では男性が7割近くを占めています。次に、当初接触ツールですが、多い順にインスタグラム、フェイスブック、マッチングアプリとなっています。被害金の主たる交付形態ですが、口座振込によりだまし取られたケースが65%を占めており、個人名義への振込が多数確認されています。

また、グラフには表れない特徴として、SNS型投資・ロマンス詐欺では、犯人側は被害者と中長期にわたりSNSでやり取りを重ね、信頼関係を構築した上で投資に誘導するなどしてお金を要求することから、被害者が被害に気がつきにくく、被害が長期に及ぶ傾向にあります。

また、利益等が出たとして被害者に少額の現金が振り込まれるケースもあり、その手口は巧妙化しています。

続いて、3ページを御覧ください。

3 被害防止対策について御説明します。

県警では、現在、特殊詐欺について、犯人と話をしない対策、犯人に騙されない対策、犯人にお金を渡さない対策の3本柱を基本として、被害防止対策を実施しています。SNS型投資・ロマンス詐欺についても、特殊詐欺対策に準じてこれらの対策を実施しています。

対策の柱の一つ目は、犯人と話をしない対策です。特殊詐欺の手口を知っていても、犯人の巧みな話術でだまされ、被害に遭う方もいます。そのため、犯人からの電話を遮断することで、被害防止を図る対策です。最近の手口には、国際電話番号を使用して犯行に及んでいるケースが多いことから、国際電話不取扱受付センターの周知及び申込みの促進等を行っています。

対策の柱の二つ目は、資料右側の犯人に騙されない対策です。これは、県民に対して、詐欺の手口や対処法を周知することで、特殊詐欺等に対する抵抗力の強化を図るものです。今流行りの手口やキーワードをタイムリーかつ伝わりやすい広報に努めています。

ここで、資料4ページを御覧ください。

最近では、警察官かたりのオレオレ詐欺が急増しています。それで、実際に警察官を名乗る人物から被害者の携帯電話に送られてきた警察手帳と逮捕状と記載された書類の画像を県警公式SNSやテレビなどで情報発信して、視覚に訴える広報を行っています。SNS型投資・ロマンス詐欺では、既に行われているSNS上でのやりとりの中で犯行がなされることから、さきほど説明した犯人と話をしない対策では、なかなか効果が期待できません。従って、犯人にだまされない対策に重点を置いて、効果的な広報・啓発に努めています。

それでは、資料3ページに戻って左下を御覧ください。

対策の柱の三つ目は、犯人にお金を渡さない

対策です。これは、ATMで振り込みをしようとしている人や犯人にだまされて今まさに電子マネーを購入しようとしている人に対する水際対策です。ATM対策として、防犯パトロール隊などと共同したATM集中警戒を実施しています。

また、電子マネー対策としては、被害者の購入先の多くはコンビニエンスストアであることから、電子マネー用封筒を作製し県内のコンビニエンスストアに配布して、購入者に注意喚起をしていただくよう依頼しています。

今後も、以上の三つの対策を中心に関係機関と連携を図りながら、各種被害防止対策を強力に推進していきたいと考えています。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより、質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

吉村委員 ありがとうございます。今回の県内所管事務調査は自分にとっても非常にいい経験をさせてもらって、いろいろ勉強になったと思います。ありがとうございます。

その中で、特殊詐欺の被害状況は出ているけれど、例えば自分の住む地域でも、最近外国人が非常に増えてきている。その中で、外国人の被害・加害がどういう状況になっているのかをもし分かれば教えていただきたい。

もう一つは、さきほど警察手帳や逮捕状の部分があり、警察官が家庭訪問するときに、いわゆる警察官をかたるオレオレ詐欺も事件としてあるかと思う。訪問されたときに、そういう警察官かどうかを見破る対策を一般の方としてどうしたらいいのかがあったら教えていただければと思います。

三浦生活安全部長 最初の被害者が外国人であるかどうかの区別は特段統計を取っていないので、お答えすることはできません。

二つ目の警察官の訪問について、まず訪問先の方は警察手帳の提示を求め、所属・氏名をしっかりと確認していただければと思います。

もっと慎重になれば、警察署に連絡し問い合わせで本人の確認をすれば、少し時間がかかるけれど、そういった対策になるかと思っています。

吉村委員 ありがとうございます。

警察官がそういった訪問をすることで、地域の状況や家庭の状況を知っていただく。そういう安全・安心のための訪問だけれど、警察官をかたることが出てきている中で、どういう対応をすればいいのかと思ったので、もう少し具体的な部分が出てくれば、今後また教えていただければと思います。よろしくお願いします。

麻生委員 特殊詐欺の現状と対策について説明をいただき、余りにも巧妙だけれど、こんなことを許してしまう日本社会があっちゃんなんという思いであり、そういう中で、まず被害の特徴の口座振込の状況。口座振込にもかかわらず、金融機関とOBもだいぶ行って対策を練っているはずだけれど、これが止められない現状にもどかしい思いをしつつあります。被害の特徴に関しては、金額別——いくらからいくらぐらいまでの被害金額の方が何%といった分析も当然あるかと思う。いまだに大型の被害金額の中で、例えば、さきほどあった巧妙に少額の金額を振り込まされている人の比率といった分析を十分やっていると思うが、その上で被害防止対策の3本柱にはない部分に手を打っていかなければ、撲滅できないのではないかな。その辺の現状について、もう少し説明できる範囲まで説明いただければ。そういった分析を行っているのかどうか伺います。

福岡刑事部長 特殊詐欺、またSNS型投資・ロマンス詐欺だけに限らないけれど、金融機関との関係で麻生委員からもお話があったので、先週全国的に報道された部分もあるけれど、警察と金融機関の連携はこういった特殊詐欺を通じてさらに深まっている状況です。

先週、警察庁といわゆるメガバンクと言われる大手8行が協定して、特殊詐欺に使われている口座情報を金融機関から警察に積極的に通報していただく仕組みができました。

また、県警としては、大分県内のありとあらゆる金融機関には協定という形ではないけれど御協力いただいて、いろいろな情報をいただく仕組みが実はもう既にできています。詳細は捜査に関係するのでここでは申せないけれど、金

融機関との連携強化は、麻生委員がおっしゃったように現在の課題でもあり、またこれからさらに緊密にしていく必要があると考えています。**三浦生活安全部長** ただいまの説明ですけれど、平成27年に協定を結び、平成29年にはJAとも協定を結んでおり、取引の関係も含めて、いろんな情報をこちらに提供いただく連携を図っています。

麻生委員 金額別のデータや口座振替、いわゆる利用された口座とそうじゃないもの。当然、金融機関とそこまで協定を結んでいたら、第一次的な部分は特定が即できるはずですが、ところが、第一次的な部分、利用された人も含めて検挙をどんどんしていけばいいけれど、そういう部分がなかなか見えてこないの、あえて聞きます。その辺はどうなっていますか。

三浦生活安全部長 金額の分析について、データとしてしっかり取れる状況にはあるけれど、今それを用意できていません。

それから、少額の分析もあるけれど、これは特に投資の関係で、犯人側が提供してきた投資アプリ、偽物ですけれどそれを見せて、利益が上がったことにしながら、その利益分を少額振り込んで、いかにももうけたかのように見せかけて、全然そういうことはないけれど、そしてだまし取る手口といった実態がある。少額がどれぐらいの金額かまでは分析ができていないけれど、一つ一つの手口については分析しています。

麻生委員 最後にするけれど、警察官、捜査当局が金融手続上の知識を本当にお持ちなのかどうか。NISAを含めた投資について、小学校のときから投資教育や金融教育を日本でしっかりと行われていけばいいけれど、何も行われていない中で、捜査する側がだます側にとにかく遅れているわけです。だます詐欺集団連中を許しちゃならないわけだから、徹底的に先を行って、しっかりと学んで対処する必要がある。こんなことを許す社会であってはいかんことだけ申したいと思います。

末宗委員 吉村委員に少し関連して、さきほど、警察手帳、逮捕状もあつたけれど、僕が思うに、

警察手帳は幸いなことにあまり見たことがない。(笑う者あり) だけど、警察手帳を出してくれとあんまり言わんけれど、警察手帳を見せられて偽物かどうかは、警察署に電話してから何とか言うのは、そこまでは日本人は1%もないんじゃないかと思う。例えば僕は宇佐市やけれど、宇佐署など大分県と分かる手帳だったら。これだったら警察の法律には触れんじやろうき、県民に分かりやすくする方法を何か考えんと。警察手帳を見せられてそれを信用するななんて、なかなかならんんじゃないかと少し説明を受けてそういう気がした。

それともう一個は、日本の道路交通法。車は左側通行だけれど。国際免許があつて、今、外国人が逆走もよくするし、日本人もするけれど。国際免許の定義が、日本人は今まであまり外国人を受け入れんかったのが急速に受け入れるようになって、少し対応が遅れている気がするけれど、そのあたりの見解を教えてください。

三浦生活安全部長 末宗委員の御質疑について、巡回連絡で戸別訪問をしていくとき、あるいはいろんな職務執行をする際に警察手帳を提示する。資料に書いてあるのは巧妙に作られた偽の警察手帳だけれど、警察手帳は階級、氏名、顔が当然出ており、下のエンブレムには大分県警察と入り、地域警察官であれば制帽・制服で訪問するので、末宗委員がおっしゃるように、大半の方は警察官だと信じていろんな話をしてください。さきほどの話の中で、それでもなおかつこのような手口がある場合に、疑われてしまえば、さきほど言ったことをすればと申しました。

後藤交通部長 もう一つの国際免許について。国際免許は、ジュネーブ条約に加盟している約110の国と地域あるけれど、その加盟国である海外から日本にやってくる時に、国際免許証という形で発給してもらい入国して1年間だけ日本で運転できる制度です。

これ以外に今問題になっているのが、いわゆる外免切替えて、外国の免許証を本来持っているけれど、日本に来て長期滞在する。例えば、留学や技術の関係で日本に来て長期滞在すると

きに、外国の免許証から日本の免許証に切り替える制度があります。

これについて、先日来の埼玉県の中国人のひき逃げやペルー人の高速道路の逆走事案で外免切替えが問題となり、日本の免許証に切り替えるのが少し簡単過ぎる、住所をよく確認した方がいいと今もろもろ課題があり、末宗委員がおっしゃるのは恐らく外免切替えのことと思うけれど、そういったことが課題となっています。

末宗委員 大体分かったけれど、警察手帳を疑うことは、日本人は余りしない気がする。説明を受ければそうなるけれど、それで本当に詐欺に巻き込まれんかと言われたら、巻き込まれるのやないか。そうしているけれど、それにまで気を付けてくれっち、制服を着てても、もう警察官全員を疑わなきゃいけない。そこまでは、恐らくちょっと。対策を何か考えてほしい。

それと、免許証について、日本は左側通行なんよ。左側通行が世界で何か国あるか知らんけれど、日本とイギリスは分かる。ほかはよう知らんけれど、本能的に左側通行しているものが、例えば右側通行のところに行ったら、左に行く可能性は相当強い。国際条約か何か知らんけれど、国際条約の盲点があるだろうき、そこあたりは主張しちよってもらいたい。じゃないと、そういう事故が起きて当たり前の世界になってしまう。警察本部長は中央の偉い人やき、警察庁に帰ったらそこあたりを強く言うてください。

幡野警察本部長 今まで御議論御質疑があった点について、私から何点か申したいと思います。

まず、末宗委員からお話があった外免切替えについて、警察庁でも制度の見直しが今始まっているので、適切な形になるようにこれから検討されるものと思います。

また、警察手帳について、さきほどの説明の際にお示ししたものは、これを実際に持った人間が家に来たものではありません。いわゆる特殊詐欺のメールのやり取りの中で、警察官であることを信用させようとして、警察手帳の写真や逮捕状の写真を送り付けて、私は大阪府警の人間なので私がいるところにお金を振り込んで

ください、これから行く人間にお金を渡してくださいといただいたしの手口に使うものです。ですので、我々が警察手帳や逮捕状をメールやSNSで示すことは絶対にないです。犯人をこれから捕まえに行くのに、逮捕状を遠隔地から犯人に示す警察官はいないです。ですので、メールでと言うときには、おかしいとまずは思っていたいただきたいと思います。

加えて、三浦生活安全部長から申したのは、今、手口としては確認されているわけではないけれど、実際、警察手帳のようなものを持って家に来ることが今後ないとは言えない。そのときに、警察官があなたのキャッシュカードと暗証番号を教えてくださいやあなたの家にある金庫のお金を少しお借りしますということはないわけです。当然、そういったことがもし必要であれば、しかるべき手続きをしっかりと経た上でするので、この人はなぜこんなことを聞くのかと思ったときには、あなたは本当に大分県警の警察官ですかと聞いていただき、電話して確認していただければ、本当に警察官であれば、本人も組織としても身分の証明をしっかりと行うので、おかしいと思ったときには躊躇せずに言うていただきたい。我々も本当にこの人は警察官かと感じている方に対しては、信用していただける説明を丁寧にしっかりと尽くしたいと思えます。

あと、少し遡るが、麻生委員の御質疑にあった部分についても若干補足をします。

金額と手口の分析は可能というか、全くやっていないわけではないけれど、他方で、被害額は結果として生じるものです。1回でだまされたことに気付けば、被害額は当然少なくなるけれど、半年や1年以上にわたってずっとだまされているときには、億単位のお金にまで上っていることもあり、金額と手口が直接の相関関係や因果関係が明確に出るかという、早くだまされたことに気付いた人は少額になる一方で、だまされたとずっと気付かなかった人は多額になることもあり、一概に言えない面はあります。

ただ、傾向として少し感じるのは、冒頭の説明にもあったように、投資を名目としてだま

された方は、投資なので結構多額のお金を出しているケースがあります。

また、そのだまされる方についても、投資にあまり慣れていない方がだまされる一方で、証券会社に勤めていた方が間違いないと信じ込んで、警察官が説明するまで被害に遭っていることに気付かなかった、正にプロでもだまされているケースがあり、実際に一部もうかりましたということでもうかったお金の受け取るケースもあれば、あなたの投資した金額は今これだけの価値になっていますと数字上だけもうかっていることをSNS上で示されて、これはおいしい話に巡り合った、次のときはもっと多額のお金を出そうということで大きくだまされてしまうケースがあります。

我々としても、3本柱で今している対策が、これはいわゆる特殊詐欺、オレオレ詐欺といった特殊詐欺に対応するものとSNS型投資・ロマンス詐欺に必ずしもぴったりとはまらない部分もあります。また、訴えかけていく相手についても、今まで注意喚起をしていた対象と別の方が被害に遭うケースもあるので、今まで届いていないところにもアプローチをしながら、最新の手口を具体的に説明しながらしていきたい。

加えて、金融機関との関係で言うと、不審な取引は金融機関でも把握されることがあり、この人はちょっとだまされているんじゃないかを取引の状況から気付いて、そこに早く声を掛けていくことによって、今までだまされていた方、もしくはだまされかけた方が水際で被害防止されるケースも相当数あり、そういった連携もしっかりしながら、また、我々も最新の手口にしっかりとアップデート、キャッチアップしていけるように取り組みたいと思います。

玉田委員 今、幡野警察本部長から総括的な答弁があった後だけれど、簡単に。

一つは、警察に相談するのは、そもそも警察に相談に行くこと自体、敷居が高いので行きづらい。そして、今は電話すると電子音ですとかと振り分けられる。それは相談してくれと言われても、途中で相談をやめようかなとなってしまうかもしれないので、電話受けの相談

体制を少し検討していただくとありがたいと思います。誰かが出ると相談しやすいけれど、入って振り分けられると少し相談しにくいと思うので、その辺は少し検討してもらえればと思います。

それから、特殊詐欺以外の件でいいですか。

清田委員長 はい、どうぞ。

玉田委員 県内所管事務調査でいろいろ勉強させてもらって思ったけれど、私でいうと山岳遭難への対策です。それについて、もちろん体制としていろいろされ、それからボランティアの大分県山岳遭難対策協議会の皆さんと一緒にされていることも重々承知しているけれど、山のスペシャリストを少し養成する時期に来ている思いもしました。特に、アウトドアブームがもう定着しアドベンチャーツーリズムの領域も広がっているので、そういう意味では安全というエリアを広げる時期に来たと思いました。これは意見なので答弁はいりません。よろしく願います。

清田委員長 冒頭の電話の受付の部分に関して、現状で何か御答弁はありますか。

幡野警察本部長 確かに、警察に連絡するケースは通常平穏な生活を営まれている間には機会がないので、警察への相談等は非常にハードルが高いのは、正にそのとおりだと思います。

他方で、振り分けについても一つの側面として、何度も同じことを説明しなければいけない苦情というか不満を感じられる方が多いのも事実で、警察署の窓口は当然一つであり、まずかけた際に自動音声の振り分けで何の相談なのか担当部署につなぐことで、担当者に最初から直接説明できることもあり導入しています。

いずれにしても、何か困ったときに警察に相談する心理的ハードルも含めて、我々としても少し下げられる努力はしたいと考えています。

(「よろしく願います」と言う者あり)

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに御質疑等もないので、以上で県内所管事務調査のまとめを終わります。

次に、執行部より報告をしたい旨の申出がありましたので、これを許します。

それでは、①の報告をお願いします。

安藤会計課長 警察費に係る令和6年度予算の繰越しについて御説明します。

資料5ページを御覧ください。

第1項警察管理費6,319万7千円を本年度に繰り越したものです。

本予算については、令和7年第1回定例会において繰越限度額の御承認をいただいています。

第4目警察施設費の事業名、警察施設改修費6,319万7千円については、大分南警察署浸水対策に係る工事費です。電気工事で使用する高圧ケーブル等が全国的に供給不足であったことから、年度内に工事を完成することが困難な状況となり繰り越したものです。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 別に質疑もないので、以上で諸般の報告を終わります。

この際、何かありませんか。

麻生委員 さきほど、警察へのいろんな相談、困ったときに最後は警察に相談する。例えば、警察署で刑事告発を受け付けて捜査が始まったとなると、当然、検察から受け付けた連絡があったりするかと思う。そして、その後の捜査状況、捜査に関わることなので、余り当事者や告発者に対して報告されることはないかもしれないけれど、当然、そこで暮らす上で不安視されているから、行政手続上、一般的には受け付けた、検察からもしっかり受け付けている、今捜査中です、それから1か月ごとに何らかの形で報告する。行政手続法上の仕組みがどうなっているのかが意外と知られておらず、後ほどでも構わないので、少し詳しく教えていただければ

と思います。

清田委員長 後ほどでいいですか。（「後ほどでいいです」と言う者あり）

私から1点だけ。すみません、少し気の早い話で、来年度の予算要求でこういうのはどうかという話です。夏場、これから花火大会や夏祭りなどが各地域で開催され、各警察署の署員は各市町村と連携して会場で交通や警備の職務にあたられるけれど、この暑さなので、民間の交通誘導員や土木現場の方はいわゆる空調服——体を冷やす空調服等、暑さ対策を万全にして外での仕事に就いている。この暑さなので、是非警察職員の皆様も健康を守る観点から、暑さ対策——いわゆる装備品、空調服や冷却スプレーの装備もこの際。もう既に何らかのことはしていると思うけれど、来年度に向けて、装備品として予算要求されてはどうかという提案です。

それは是非応援したい、委員の皆さんも応援したいと思うので、警察職員の健康を守る観点で是非御検討いただければと思います。よろしくをお願いします。

幡野警察本部長 すみません、我々を大変お気遣いいただいたの温かい御支援を誠にありがとうございます。

暑熱対策について、確かに気候変動で非常に暑くなっており、職員がその持てる力をしっかりと現場で出せるように装備面でもいろいろと何か知恵がないかはこれからも考えたいと思うので、予算要求に行きついた際の御支援についてもどうぞよろしくお願いします。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかにないので、これをもって警察本部関係の審査を終わります。

執行部はお疲れ様でした。執行部が入れ替わるので、少々お待ちください。

〔警察本部退室、教育委員会入室〕

清田委員長 これより、教育委員会関係の審査に入ります。

本日は、都合により井上委員が欠席していま

す。また、委員外議員として高橋議員、澤田議員、猿渡議員、佐藤議員に出席いただいています。

それでは、議案審査に入ります。第66号議案大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について執行部の説明を求めます。

山田教育長 教育長の山田です。

清田委員長、岡野副委員長をはじめ文教警察委員の皆様におかれては、平素から本県教育の振興に御尽力を賜っていることに対して、厚く御礼申し上げます。

先週の一般質問でも話題になったとおり、国において約50年ぶりの大改革と言われる公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の改正が行われています。

また、本県においても、通学区域制度検証委員会の答申が先月末に行われました。大分県教育委員会としても、入試制度の改革や地域の高等学校の在り方等について、急ぎ見直しを進めていかなければならないと考えているところです。課題は山積していますが、職員一丸となって一生懸命取り組みますので、御指導よろしくお願いします。

本日は、付託案件1件、県内所管事務調査のまとめ1件、諸般の報告4件について、担当課長から御説明申し上げます。よろしくお願いします。

神屋教育人事課長 大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について御説明します。

資料2ページを御覧ください。

1改正の内容を御覧ください。令和7年5月1日を基準日とする学校基本調査により、令和7年度の子童生徒数が確定しました。これに伴い、県立学校職員及び市町村立学校県費負担教職員の定数も確定したので、条例改正を行うものです。なお、資料下段の四角囲みに児童生徒数等の前年度比較を記載しています。

2増減の内訳を御覧ください。まず、(1)県立学校職員については、高等学校の収容定員の減はあるものの、特別支援学校の児童生徒数

が増えたことにより、県立学校合計で21人の定数増となっています。

次に、(2)市町村立学校職員については、35人学級が小学6年生まで拡大したことによる増加要因があるものの、児童生徒数の減少に伴い、市町村立学校合計で23人の定数減となっています。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより、質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

末宗委員 委員会じゃないけれど、議会が始まって議案説明会がこの前あった。それで、専従職員のことを質問して後ほど説明にあがりますと言われたけれど、いまだにない。この場でするんかね。

神屋教育人事課長 申し訳ありません。人数ですか。(「専従。おたくは説明に来てないんか」と言う者あり)申し訳ありません。報告が私ではなくて。(「誰が来た、あなたの部下か。課長に説明もせんのか」と言う者あり)人数を御報告したのは、お聞きしたんですけれど。(「専従の関係の説明を少しお願いするって言ったけれど」と言う者あり)人数だけの話とお聞きしていたので、大変申し訳ありません。(「後ほど説明に来るのは何やったんじゃろうか」と言う者あり)

清田委員長 今、御説明いいですか。(「今、説明でいいよ」と言う者あり)末宗委員がリクエストしていた専従の関係の説明をお願いします。

神屋教育人事課長 大変申し訳ありません。

令和7年度の教職員組合の専従職員について、大分県教職員組合が4人、大分県高等学校教職員組合が1人で、計5人となっています。

専従については地方公務員法の中で規定があり、そこで毎年度協議をしながら人数を決めています。

末宗委員 専従の仕事って何じゃろうかと聞きたかった。どういうのが対象か。

神屋教育人事課長 地方公務員法の中で組合の役員をすることになっているので、例えば、執行委員長や副委員長で、そういう役員が専従を

しています。

末宗委員 だから、専従の仕事内容。

神屋教育人事課長 例えば、現在専従で就いている執行副委員長については、委員長の補佐、組合の組織強化、新入組合員の集会開催です。

あと、いろいろな業務や委員を兼ねているので、会計委員で組合費の徴収や収支の計画を立てたり提案したり、そういう業務等を。

末宗委員 組合員の仕事をするのは何も言わなければ、組合員の仕事に選挙運動は入っているのか入っていないのか。

神屋教育人事課長 専従の許可を行うにあたって、業務内容に選挙活動は入っていません。(「入っていない」と言う者あり)はい。(「入っていないんだね」と言う者あり)はい。(「ほんなら、選挙運動したら違反じゃね」と言う者あり)

清田委員長 そうです。教員に限らず、公務員は違反です。(「間違いないね」と言う者あり)(「そうです。業務内容には入っていない」と言う者あり)(「入っていないんだね。間違いないけりゃ、それでいい」と言う者あり)

吉村委員 今の点について、業務内容や政治に関わることはもう一度よく調べていただいて、また後日御報告いただければと思います。何か誤解があったら悪いので。(「分かりました」と言う者あり)

清田委員長 いわゆる選挙運動や政治活動、認められているものと認められていないものの区別や線引きが当然あるでしょうから、選挙運動は駄目だと私は理解しているけれど、吉村委員のリクエストでお願いします。(「はい、分かりました」と言う者あり)

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

猿渡委員外議員 先日質疑した際に、持ち帰り仕事で小学校1日平均24分、中学校1日平均18分との回答だったんですけれど、正直言って、私が聞いている状況と少し違うんじゃないかという思いを持ちました。実際、数字がこん

なものなのか、短いんじゃないかという思いを持ち、どういう算出方法や調査をされているのか、本当に正確に反映されているのかという気が少ししたので、算出方法について教えてください。

神屋教育人事課長 持ち帰り時間の調査方法ですけれど、県立学校については、毎年度時間外勤務状況調査を実施しています。昨年度は10月7日から11月17日の間のいずれか1週間で、学校がその期間を選択して実施しています。

市町村立学校については平成28年度に1度調査をしましたが、その後はそういう調査に負担もあるので、ずっとしていませんでした。今回8年ぶりに調査をしましたが、調査方法としては、前回の平成28年度でも抽出調査でしたが、令和6年度に市町村教育委員会で持ち帰りの時間数の調査をしているところが6市町あり、今回はそちらからデータをいただいて、大分県教育委員会で集計しました。

集計の方法については、6市町からいただいた全員の持ち帰り時間数を合計し、全体の人数で割って1日当たりの平均の時間数を算出したものです。

調査対象の人数は、前回1,023人に対して、今回1,817人で増えています。どうしても平均になるので、中にはゼロの人もいれば少し長めの人もあるとは思いますが、調査方法としては適切だと考えています。

猿渡委員外議員 時間が下がっているのでも簡単に言いますが、時期によって学年末が忙しかったりすると思うけれど、やはり持ち帰り仕事が多い忙しい時期に調査をしないとなかなか実態が反映されてこない気がするの、時期等調査方法は大変な状況を把握すべきだと思うので、それが把握できる形で今後考えていただきたいと思います。

清田委員長 要望でよいですか。（「はい」と言う者あり）

ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに御質疑等もないので、これより採決します。

本案は、原案のとおり可決すべきものと決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

清田委員長 御異議がないので、本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、付託案件の審査を終わります。

次に、去る5月13日から6月4日にかけて行った県内所管事務調査のまとめを行います。執行部の説明をお願いします。

鈴木教育改革・企画課長 今年度の県内所管事務調査において、六つの教育事務所、七つの学校、遠隔教育配信センター及び大分県立図書館を訪問いただきました。その節はありがとうございました。

その中で、各学校等の特色ある取組や今年度から本格実施した配信センター方式の遠隔授業の受信校である日田高等学校の授業の様子、中高一貫教育を実施している安心院高等学校の取組等を御覧いただきました。

本日はそのまとめとして、県立高校における中高一貫教育の取組について高校教育課長から御報告します。

小野高校教育課長 県内所管事務調査のまとめとして、県立高校の中高一貫教育について御報告します。

委員会資料の3ページをお開きください。

県立高校における中高一貫教育は、現在3校において実施されています。このうち、安心院高等学校と由布高等学校では連携型中高一貫教育、大分豊府高等学校では併設型中高一貫教育が行われています。

連携型は、地元中学校や小学校との連携、協働によって教育活動を展開するものです。連携中学校からの高校入学に際しては、中高連携した学習の記録の提出や面接などの簡便な入試が行われています。

安心院高等学校は、令和5年度まで文部科学省の指定により小中高一貫教育を研究し、安心院・院内地域の安心院中学校・院内中学校の2中学校、7小学校と連携した教育活動を行っています。

由布高等学校は、県の指定により市内の抜間

中学校・庄内中学校・湯布院中学校の3中学校との中高一貫教育に取り組んでおり、高校教員と中学校教員によるチームティーチングにより学力向上に取り組むなどしています。

併設型は、同じ敷地内に設置者が同じ中高を併設し、6年間を見通した教育活動を実施するものです。併設中学校への入学段階で選抜が実施され、併設中学校から高校へは無選抜で入学します。

大分豊府中学校・高校では、併設であるメリットを最大限にいかし、6年間をつなぐ学習や中高合同の学校行事などを行っています。

今後は、さらに効果的に6年間を貫く学校の在り方や工夫について考えます。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

吉村委員 安心院高等学校を視察・訪問したときにも少しお聞きしたけれど、高校の中でも、いわゆる探究的な学びが非常に活発に行われてきている。その中でも、授業時間数も少し増やしながらという状況。これはどう結びついているのかと言うと、地域のことを学んでいく、地域の人と一緒に学ぶ、地域愛にもつながってくると思います。その中で、大学入試に関わって、年内入試で、最近探究的な学びを多くして、そのことをもって大学入試を受けていくことをアピールポイントとして受けていく。その辺の状況をもう少し、安心院高等学校やほかの県内の高校について教えていただければ。

というのが、中学生が高校を選択する際に、やはり出口の問題は非常に大きいと思います。大学進学率もかなり高くなっている状況があると聞いたので、その辺のところを少し説明していただければと思います。

小野高校教育課長 御質疑ありがとうございます。

今、吉村委員がおっしゃったように、高校では探究的な学びが各学校で取り組まれています。特に地域の高校では、地域に出向いて、地元の方や地域人材と共に学んでいく体制ができています。出口について御質疑があったけれど、現

在は年内に総合型選抜入試があり、かつてこれはAO入試という自己推薦型の自分自身で学びをアピールしていくものがありました。今、総合型選抜になっており、これは正に自己推薦になるけれど、学びを自分でPRしながら積み上げてきたものを将来につなげていく。そして、大学の学びにつなげることで、生徒自身が非常に深い研究の成果をこれまでの取組の成果として入試に臨む体制があります。

地域の高校では、総合型選抜にチャレンジせよということに取り組んでおり、一般入試とは別にそういったものが今増えている。大学側もその入試に移行しているものもあるので、積極的にこれも進めたい状況です。

吉村委員 ありがとうございます。

是非、中学生、中学校教員、保護者に出口の部分について、学んでいる中身ももちろんだけれど、出口の問題についても十分伝えられるように義務教育課と連携しながら、是非取り組んでいただければと思います。お願いします。

玉田委員 県内所管事務調査の対応、本当にありがとうございます。とても勉強になりました。

今、中高一貫教育で報告をいただいたけれど、少し側面を変えて、安心院高等学校で思ったのは、やはり総合選択制の高校の今の在り方を見直すべきではないかという思いをしながら帰って来ました。

総合選択制は県下どこでも、特に普通科は定員割れが非常に大きいけれど、例えば工業高等学校や商業高等学校であれば、もう入学のときから自分の行きたいコースを決めていくイメージがあると思うけれど、総合選択制の場合に、いろんな専門科があり選べることで、いろいろ乗り入れして勉強できるシステムだけれど、そもそも普通科を軸にしながら他の専門科目を学べるように少し見直すべきではないかという思いがしました。

安心院高等学校の場合は普通科で、その後、専門科目のコースに移っていくことを地元の皆さんにもしっかりと理解いただいて、普通科に来ています。

県下の総合選択制の普通科が定員割れしていることを考えると、急には変えられないけれど、そこを少し見直すべきではないかという思いがしたので、これは安心院高等学校の例を見ながら、総合選択制への一つの問題提起になっている思いがしたので、指摘したいと思います。もし答弁が何かあれば、よろしくお願ひしたいと思います。

小野高校教育課長 ありがとうございます。

今、総合選択制高等学校は県内に9校あり、専門学科と普通科が併置している学校です。その中で、玉田委員がおっしゃったように、有効な活用についてはこれからしっかりと協議していかなければならない側面もあります。

一方で、例えば珍珠美山高等学校も総合選択制で普通科と地域産業科という農業科があるけれど、普通科の生徒が農業系の大学に行くとき、その教員の授業を取りながら将来の進路につなげていく、キャリア教育につながっているメリットもあり、教科横断的や学校横断的な学びがこれから非常に必要になってくるので、何とか有効な手立てはないか、活用方法がないかもしっかり考えたいと思います。

玉田委員 よろしくお願ひします。

今申したように、やはり普通科を軸としながらというところに少し重きを置いた方がいいという思いなので、どうかよろしくお願ひします。
末宗委員 皆さん、安心院高等学校の件、大変ありがとうございます。（笑う者あり）私も地元なので。

安心院高等学校の場合、小中高一貫で、1年か2年前に全国募集を始めた。そして、大体まだ確定はしていないけれど、教職員住宅を宇佐市に払い下げしてくれる話までは聞いています。

そして、その後、修繕の問題に加えて、教職員住宅を払い下げた場合に、県外から来る生徒を誰が賄うのかという問題。学生は高校生やき、これを宇佐市だけで全部負担させるのも矛盾している。払い下げても、こんだけまた県が全て負担するのも何か矛盾している気がして。県がやる事業ならいいけれど、県が払い下げたものを宇佐市に全部。そのあたりの矛盾を非常に感

じて、どう解決していくんだろうという気分があるから、非常に難しい問題だけれど、片付けんわけにはいかんという気分なので、執行部の皆さん、議員の皆さん、協力をよろしくお願ひして要望に代えさせていただきます。よろしくお願ひします。

清田委員長 要望でいいですか。（「要望でいい」と言う者あり）そういう要望ですので、お願ひします。（「強い要望と書いて」と言う者あり）（笑う者あり）強い要望。

ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに御質疑等もないので、以上で県内所管事務調査のまとめを終わります。

次に、執行部より報告をしたい旨の申出があったので、これを許します。

まず、①の報告をお願いします。

小野高校教育課長 通学区域制度検証委員会による答申について御報告します。

委員会資料4ページをお開きください。

昨年9月に通学区域制度検証委員会を設置し、通学区域制度の在り方に関する事、地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関する事の2点を諮問して、4回にわたり審議いただきました。その内容をまとめた答申が、5月末に提出されたところです。

委員会資料5ページに記載のとおり、答申では通学区域制度の検証と魅力ある学校づくりについて、地域を越えた通学状況に関する客観的なデータや、中学生、高校生及び保護者のアンケート結果を踏まえて、現状分析がなされています。

続いて、委員会資料6ページに記載のとおり、検証のまとめが述べられています。今後の通学区域制度の在り方については、生徒が自由に主体的に進路選択する経験が貴重であることから、全県一区をベースとしつつ地域の今後に配慮するため、一部の選抜方法で通学区域を設定する制度設計もあり得ると述べられており、その例

として、第二志望制が示されています。現在、国でも公立高校の選択肢の拡大を趣旨としたデジタル併願制の検討がスタートしており、本県でも本答申を受け、生徒の選択肢の拡大、地域の定員充足につながる入試の在り方について、慎重かつ早急に検討を進めます。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

末宗委員 僕は10年ぐらいこれを言っているけれど、今回の制度がいい方向に行くのか悪い方向に行くのか、自信のほどを大分県教育委員会にまずお伺いしたい。

今、内容を少しぱっと見て、3ページを30秒もせずに説明したき分からないけれど、全県一区をベースとしながら一部の選抜方法で通学区域を設定するというなかなか訳分からん選抜方法だけれど。

今まで僕が10年間、例えば3%枠や5%枠で全県一区が始まる前はやっていたけれど、そういう制度、3%や5%枠だったら非常に物事は分かりやすいけれど、今度の場合は3%枠や5%枠じゃなくて、一部受けたらその試験点数でそこに通らんかった場合は、地元の学校にという意味を聞いているけれど、それで大分県下の高等学校がみんな改善するのかどうか、自信のほどを大分県教育委員会にまずお聞きしたい。

小野高校教育課長 末宗委員がおっしゃった件ですけれど、今、国で制度設計しているデジタル併願制は、例えば受験生の成績を得点の高い順から並べていき、本人の希望と合わせながら最適な高校に振り分けていくことで、従前からの人気校への集中、あるいは欠員がある高校がさらに欠員が増す流れも指摘されているところ です。

本県で今考えているのは、地域の高校で定員が埋まっていない学校を対象として、第二希望を志願してもらいたいのので、一次入試については全員が全県一区、普通科だけれど、全県一区でどこでも受ける。そして、第二次希望については、欠員がある地域の高校、エリアを切っ て考えているので、生徒が地元にある身近な高校

で学ぶ環境がつくられると考えています。

検討の中では、どの地域にどの生徒が志願できるのか、エリアや区域をしっかりと慎重に考えていかなければならないので、受験生のこれまでの動向や地域の高校の活性化につながる両面からしっかりと考えた制度設計をしていきたい。

今、自信のほどはと言われたけれど、当然、その効果を狙って、効果があるものと考えて設計しているところなので、しっかりと進めていきたいと考えています。

末宗委員 自信のほどはいくらかある感じも受けたけれど、それが悪かった場合、ずっと続けたら今まで生徒はずっと併願受けるわけやから、悪かった場合にすぐ変更が利くのかどうかの対応は。例えば、1年ごとに見直すのか、3年ぐらいで見直しするのか。しかも、この制度は高校を差別化するわけやから、大分県の高校、どこが1番、2番、3番と分けていくだろうから、そういう差別化につながる制度だから、失敗した場合は柔軟に対応しないといけないわけやけれど、そこあたりの制度を少し教えていただきたい。

小野高校教育課長 まず、末宗委員が今おっしゃった高校の差別化とは捉えてはいません。地域の高校の欠員があるところに、生徒が行ける幅を持たせることです……（「そこで言ったら、こっちはそう考えるわけだ」と言う者あり）分かりました。何年かについて、単年、3年ごとや5年ごとはまだ正式には考えていないけれど、遠隔授業も入ったので、そういった効果もあわせて見ながら検証はしっかりとしていきたいと考えています。

末宗委員 最後に検証と言ったけれど、県の検証って大体当たっていることがない。これも大体分かる。例えば事故の原因の検証をするにしても、違う方向の検証をしている実態が多い。真実を突き止めようという気がない。最後は予算の消化だけ、検証にたくさん金かけて。そういう検証じゃなくて、本質を見極める。例えばそういう検証委員会よりも、実際に高校の教員は毎日授業しているから、真実がある程度見えているわけだ。だけど、言わせない体質も大分

県教育委員会にもあるわけ。そこあたりを柔軟に対処して、この制度がうまくいかんかったら、俺は10年間言ってきたけれど、また、今度はそれが悪いのを1年に一遍じゃなく3回も4回も言わないけんようになる。悪いのを長引かせるのが一番悪いから、よろしく願いしたいけれど。

さっき差別化じゃないと言うけれど、実際は差別するわけやけ、落ちたもんが来るわけやから。そうなるから、大きな転換点なんよ。そういう言葉は上手じゃなくていいから、現実的に今、教員やったら地域の事情を見たらこうなっていると、それを認めながらやっつかんとしょうがない。

この前、上野丘高等学校に委員会で行けれんかったき、遠隔教育を見に行っただけで、そのときに思った。鹿児島県、熊本県や福岡県は昔藩校があったけれど、上野丘高等学校の教員にここは大分県の藩校だったかねと言ったら、どうですかねって。もう本当に分からんかったことで、藩校とか。昔、江戸時代はそうやっていたんだから、そこあたりの真実を追求しながら運用していただきたい。

山田教育長、そこあたりの見解をどう思いますか。よろしく願いしたい。

山田教育長 この全県一区の課題については末宗委員からずっと御指摘を受けており、今回の検証委員会の各委員に本当に熱心に審議をしていただき、いろんな資料の要求もあり、非常に膨大なデータを整理して、皆さんにいろんな角度から検討してもらいました。

この答申が出たけれど、さきほど申した第二志望制だけではなくて、今回の答申は第二志望制が肝だと思うけれど、それ以外に地域の高校が地域とより連携を深め、魅力・特色化を並行して進めることがやはり大事だと言われており、遠隔教育もさらによりよいものに充実していく御指摘も受けています。

ということで、すぐに成果が出るかどうかは正直やってみないと分からない部分ももちろんあり、当然、改めるべきところは迅速に改めていくべきと思っているけれど、やはりいろんな

要素が高校の問題には絡んでいるので、全体を総合的に進めていく中で、その状況を見極めていくことが大事ではないかと思っています。そういう意味では、余り急いで物事を決めるのではなくて、少しじっくり構えて対応していくことが大事ではないかと思っています。

末宗委員 最後に1点だけ。これの導入はいつから。

山田教育長 それは一般質問でも森議員から再質問があり、そのとき申したように、高校の入試システムのシステム改修が必要になるので、その改修にどのくらい時間がかかるのかを業者と今協議しているところです。それができない場合は手作業になり、入試後の短い時間ですぐに発表になるので、間違いのない体制がきちんとできるかどうかの検証も今あわせてしています。人海戦術でできることになれば、今年度実施分からでき、やはりそれは無理だとなればもう少し時間がかかるということで、そこは今検証中です。

吉村委員 答申を受けてもうほぼ答申のとおりではないけれど、第二志望制を中心とし、そして遠隔をしてだけれど、今までも議会でもここまで随分と議論になってきた中で言えば、あまり急ぐ必要はないと逆に僕は思っています。

というのは、高校教育の無償化が始まっていく中で、私立高校の動向がこれからどうなっていくのかを十分見極めた上で、この部分を考えていかならんと思っています。

例えば、上野丘高等学校を第一志望で受け、そして地元の学校はどうですかといったときに、果たして地元の高校、定員割れしたときだけになるかと思うけれど、その学校に第二志望として行くのかどうか。それよりも、地元の特色のあるまたは進学率が最近高まってきている私立高校の特別進学コースに、子どもや保護者はひょっとしたらそっちに行くのではないかと。ということは、地元の高校にとっては、今までと変わらない状況が生まれるのではないかと危惧しています。

あわせて、やはり公立高校の果たすべき役割をもう一回しっかりと考えた上で、今、いろん

な子どもがいて、不登校の子どももいる、支援の必要な子どももいる、こういう子どもが高校に進学する。もちろん、さらに言えば、大学進学等も当然あるけれど、そういう子どもをどう支えていくのかも公立高校の大きな役割だと思います。

僕の知っている中学校で、完全に不登校やっただ子どもが中津南高等学校耶馬溪校に行き自信を取り戻して、教員の本当に温かい支援の下で教育学部を目指そうかという子どもも出たことを考えたときに、本当に公立高校の役割ってこういうところにも一つ大きくあると思います。

だから、そんなことも含めた今後の公立の役割は何か。私立が無償化になっていくときに、どういうことが起こってくるのかも含めて、入試制度の在り様を考えた方が個人的にはいいと思っています。

だから、正直言って拙速にならないでいただきたい。僕はもうここまで待ったというか、やっと一つの結論が出たけれど、そこを踏まえて十分議論してほしい。答申を受けて、議論をもう一回しっかりとしてほしい。

もう一個だけ、僕は前にも言ったことがあるけれど、島根県では基本は全県一区。ただ、松江市と出雲市については、何%という地域枠をつくっている。こういうことについても、やはり今の分県で、例えば大分市でそういうのが適用できないのかも含めて検討していただければと思います。

清田委員長 要望でいいですか。（「はい」と言う者あり）

ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

高橋委員外議員 すみません、時間が押しているのに。

通学区域の検証の中で、大分市内の県立高校への進学が臼杵市などでは進学者が増えている。また、全県一区制度の希望の状況の中でも、臼杵市、津久見市、杵築市、豊後大野市、日出町では高い希望割合になっている。私はよそのこ

とは分からないので自分の地元の臼杵市のことだけ言うけれど、臼杵は臼杵商業高等学校と野津高等学校がかつてあった。だから、臼杵高等学校には少し無理でも、臼杵商業高等学校に行ってから次の大学へステップを踏むことができた。ところが今、臼杵高等学校と海洋科学高等学校しかないので、臼杵高等学校に行けない子どもたちは、船乗りになるかっていうとそういうわけにいかないわけです。やはりそうなると、全部市外へ出ていくわけです。市外へ出てから、今度は県外の大学へ進む。そういうことで、結局、市内の高校を選ぼうにも選べない状況がある。地元の高校を選ぼうにもなかなかその選択肢がない。だから、全県で見れば選択肢は一杯あるかもしれないけれど、地元で見たら選択肢がないわけです。そういうことでは、本当の意味で自分の行きたい高校や居住地によって進学先が制限されるのは不平等だという声がやはり上がってくるわけです。だから、子どもたちに選択の幅を広げるといっているのであれば、地元でそうやって選択ができる高校がたくさんないとやはり私は不平等と思うので、今すぐ統廃合云々という話ではないと思うけれど、そういうところも今後十分考えていただければと思います。

清田委員長 要望でいいですか。（「何かあれば」と言う者あり）何か答弁があれば。

山田教育長 今のお話は大変重要な点だと思います。

今回の答申においても、委員会資料6ページの今後求められる取組の冒頭に、今後の県立高校の在り方の検討で、10年先、その先を見据えて県立高校の再編の方向性も含めた将来像を具体的に示すことが書かれています。

委員からも、将来10年先どうなっているのかを大分県教育委員会としてきちんと示さないことには、全県一区の在り方、あるいは高校のあるべき姿も検討のしようがないと厳しい意見もいただきました。

地域にいろんな選択肢があればいいというのも一理あるが、片や、15年後に子どもの数、生徒の数が3分の2、3分の1ぐらいに減ってしまう現実もある中で、いかに学びの質を維持、

向上させていくかも重要な要素であるので、どうその折り合いを付けるかをしっかりと検討していきたいと思っています。

佐藤委員外議員 すみません、もう時間がないので端的に。

同じく第二志望制の話ですけれど、例えば子どもたちが高田高等学校からチャレンジとして、第二志望でどうせ高田高等学校にまた変えられるからほかにチャレンジしてみようと、今まで考えていなかった子どもたちが出てくる可能性はないですか。細かい制度をちょっと聞いていないので、よく分からないけれど。

小野高校教育課長 制度自体は、基本的に今、二次試験をしています。二次試験は、欠員があった高校に出願して受験する二次入試をしているけれど、考え方はそれと変わらないことになるかと思えます。

一次入試を受けて、その結果、欠員があるところに二次希望を出すことで、例えば一次希望で入っている生徒を二次希望の生徒が押しつけて入ってくる状況になると人気校に非常に集中する可能性もあるけれど、いわゆる地元の高校がどうなるか分からない状況の中で一か八かで受験する制度は、今の二次入試の動向を見るとそこまで多くはないのではないかと考えています。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに質疑もないので、次に②の報告をお願いします。

小野高校教育課長 令和8年度推薦入学者選抜について御報告します。

委員会資料7ページをお開きください。

推薦入試については、公正・公平な実施に向けて、有識者から、推薦要件、募集人員、選抜の方法及び評価の在り方等について意見を伺ってきました。これを受け、令和8年度推薦入試については次の4点を変更することとしました。

1点目は、推薦要件に対象とする活動名を明記できることとしました。

2点目は、各学校が提示する推薦要件の区分を対象とする活動名を明記する活動指定あり、活動を指定しない活動指定なし、加えて、志望

学科への適性を基に選抜する志望学科の三つに区分し、推薦要件ごとに募集人員を明記することとしました。

3点目は、調査書点に関する基準がある場合、これを明示して出願時の判断材料とすることができるようにしました。

4点目は、どの資料をどの程度評価するのか、どのような観点で評価するのかが明確となるよう選抜の資料における評価の観点、比重を公表することとしました。

資料の右側にサンプルを掲載していますが、少し見えにくい部分もあり申し訳ありません。サンプルの中で赤枠の①のところが活動指定ありの例として、スポーツ活動で硬式野球、サッカー等が書かれているが、そういったものを想定しているところです。

以上が、公正・公平な推薦入試に向けての主な変更点です。今回これに加えて、左側の補足事項にあるとおり、募集人員の割合の変更、第二志望の出願についても変更し、生徒の選択肢が拡大するようにしています。

これらについては受験者や保護者に十分に周知し、円滑な入試の実施を図ります。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 別に質疑もないので、次に③の報告をお願いします。

神屋教育人事課長 教員採用試験出願状況について御報告します。

委員会資料8ページを御覧ください。

5月7日に受付を終了した今年度の教員採用試験の出願状況については、一般選考の延べ出願者数が1,216人と昨年度から161人増、出願倍率は2.8倍と0.2ポイント上がりました。

今年度から受験可能とした大学3年生については、190人に出願いただきました。特別選

考の出願者数は79人で、昨年度から14人増となっています。令和5年度から設置した大阪会場受験希望者は95人で、昨年度から16人増となりました。また、今年度から設置の東京会場受験希望者は54人、福岡会場受験希望者は83人となっています。

特別選考を含めた出願者数について、昨年度から175人の増となっており、九州の中では一番増加数が多くなっています。

出願者増の要因については、県外会場の増設、受験資格要件の緩和等の受験しやすい環境づくり、加えて動画を用いたSNS広告等の積極的な広報活動等によるものと考えています。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

末宗委員 ちょっと一点だけ。

対応状況は大体聞いて分かったけれど、昔から議題になっている教員は労働者か聖職者かは今どういう定義になっている。

清田委員長 難しい。答えられますか。（「答えは出たか」と言う者あり）教員は聖職者か労働者か。（「よう議論しよったんだ、昔、何十年前も。結論は出たか。どげなっとるの、あれは。消えてしもうた」と言う者あり）

山田教育長 当然、労働者であることは間違いないと思うけれど、例えば労働基準法に規定された時間外勤務手当が適用されない、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法で教職調整額で示されていることで、それは教員という仕事、末宗委員が言う聖職者として、要は高度な専門性を持った仕事という意味でそういう位置付けがなされており、聖職者であるがゆえに労働者ではないということではない。労働者であるけれど、一部の労働者の権利が制約されて、教職調整額で時間外勤務手当に代えられる。そういう部分があると御理解いただければと思います。

末宗委員 そういうふうに訳分からんき、出願数がこうして減ってくるんじゃないかな。やはり尊敬される職業じゃない感じも少ししたから。俺の感想やきいいわ。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

高橋委員外議員 ありがとうございます。

今、教職員のなり手が非常に少なくなり、全国的にも少なく、今年も県内も50人以上足りない中で、この採用予定者数で何とか賄えるじゃないけれど、聞けば、高知県は受験を蹴って、採用はされたけれど、実際になる人はすごく少なかった実態もあった。当然、今後二次試験に受かり採用予定になっても、辞退する方もいるかもしれないということを考えたときに、この採用数で今の分県の不足数を補充できるのかどうか。そこら辺はどうなんですか。

神屋教育人事課長 今回の採用予定者数ですけど、一般選考で28人ほど増やして募集をかけています。

実際、県外会場も増やしたので辞退される方も一定程度出てくるかと思うが、それに対して補欠合格者制度を新たに導入したので、仮に辞退が出た場合でも、昨年度までは辞退が出てその区分はもう欠員になっていたけれど、今回からは補欠合格の名簿の中から採用していくので、そういう辞退に対しても対応できていくと思っています。

高橋委員外議員 もう時間がないので、よろしくお願いします。とにかく私らも、大分県教育委員会の方がよほどよく分かっていると思うけれど、今、人が足りない、人が欲しい、子どもたちのためにもやはり人がいないと学級担任も決められない状況なので、極力不足がない方向でよろしくお願いします。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに質疑もないので、次に④の報告をお願いします。

神屋教育人事課長 令和7年5月23日付け教職員の懲戒処分について御報告します。

委員会資料9ページをお開きください。

番号1を御覧ください。県立高等学校教諭、宮川剛57歳を免職処分としました。

事実の概要を御覧ください。当該教諭は、部活動の保護者会から同部外部指導者等へのガソリン代等の支払を依頼され、金銭を預かっていたにもかかわらず、同部外部指導者等に支払わず、令和3年4月から令和6年3月までの間、総額80万円を着服した。

また、遠征における宿泊費等を大分県スポーツ協会と部費や同部保護者会に二重に請求し、令和4年4月から令和6年3月までの間、総額31万3,252円を不正に受領したものです。

次に、番号2を御覧ください。県立高等学校50代男性教諭を停職3月の処分としました。

事実の概要を御覧ください。当該教諭は、令和6年6月から11月までの間、勤務校の部活動とは関係のない教え子の国際大会の出場を応援するための横断幕の作成費用や他校生徒等の練習で利用した施設の使用料計3万8,076円を部費として請求し支出した。

また、同部活動で使用する大型タイマーの購入資金に充てるため、遠征における宿泊費を大分県スポーツ協会と同部部員の保護者らに二重に請求し、令和6年5月から12月までの間、総額6万5,900円を不正に受領した。

さらに、令和6年11月から12月までの間において、同部とは関係ない者のみに対する指導を同部部員生徒への指導を行ったと虚偽の報告を11回行い、部活動に係る特殊勤務手当3万9,600円を不正に受給したものです。

次に、番号3を御覧ください。大分市公立小学校40代男性教諭を戒告処分としました。

事実の概要を御覧ください。当該教諭は、令和5年2月から令和6年1月までの間、SNS（X旧Twitter）において、面識のない複数の同SNS利用者の投稿に対して、教育公務員として不適切な内容の投稿を複数回行ったものです。

以上の3事案について、当該行為は教育公務員としてあるまじき行為であり、その職に対する信用を著しく失墜させたことは地方公務員法第33条の規定に違反するものであるため、それぞれ懲戒処分を行ったものです。

本件の発生に伴い、大分県教育委員会として

臨時の県立学校長会議を実施するとともに、改めて県内公立学校の全教職員に対して綱紀粛正及び服務規律の保持を徹底するよう指示を行いました。

今後とも、不祥事の根絶に向けて、再度、綱紀粛正及び服務規律の保持の徹底に努めます。

最後に、資料にはありませんが、教職員の逮捕について御報告します。

先週、令和7年6月19日木曜日午前4時52分に、大分市公立小学校の女性学校事務職員28歳が過失運転致傷・道路交通法違反の容疑で県警に逮捕されました。

事案の概要は、6月18日水曜日の午前7時49分頃、通勤にて軽四乗用自動車を運転中、大分市大字上宗方の市道上交差点において、自転車で走行中の高校生と衝突して転倒させる交通事故を起こし、同高校生に左肘打撲の傷害を負わせたにもかかわらず、救護する等必要な措置を行わず、かつ警察等に報告しなかったものです。

大分県教育委員会としては今後事実関係を確認の上、厳正に対処したいと考えています。

清田委員長 以上で、説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆様から質疑、御意見等はありませんか。

麻生委員 まず、1番と2番は明らかに刑法犯罪と言えるけれど、刑事告発は大分県教育委員会——管理責任者としてしているのかどうか。

それから、今回の処分について、1番は名前を公表しているのだから、例えば駅伝の有名な人気の教員だったと分かるけれど、2番の部活動は一体何なんだろう。処分基準があると思うけれど、それをお示しいただき、そのどこに1番が該当する、2番が該当する。それによってこうなったという部分が全く説明されていないので、そこを説明ください。

当然、これは部活動に関わる案件で、競技団体の役員がどういうことを言っているのか。要は、金がないから無理してこういうことになっているのかどうか。競技団体の会長や役員は、資金調達や金集めに大変苦労されるわけだけれど、そういった連携がしっかりとスポーツ

協会を含めて大分県教育委員会として連携が図られていないから、こういうことが起こり続けているのではないかと思います。その辺についても報告いただければ幸いです。

さきほど採用試験の話もあったけれど、交通事故を起こしてひき逃げの案件も含めて、学校の教員は常識不足とかあきれるばかりのことがあまりにも起こるものだから、採用試験でそういったことが十分チェックされているのかも気になるので、そこら辺についても大分県教育委員会の考えがあればお示してください。

神屋教育人事課長 刑事告発について、警察にはそれぞれの案件を相談しているが、それぞれの案件とも全額弁済されていることと保護者会の意向などを総合的に判断して、今回告発は行っていません。

二つ目の公表基準ですけれど、懲戒免職については氏名を公表することになっています。2番目のケースについては、停職であるので氏名の公表はしないことになっています。

吉野体育保健課長 競技団体については、私もからスポーツ協会の会計責任者や競技団体の会計責任者を一堂に会して、適正な会計をするように毎年4月に指導しています。

ただ、今回の案件があるので、7月にもう一度、部活動の担当者や学校の管理職等を含めて、チェック体制の確認とそれをしたかどうかのレスポンスまでやっていこうと考えています。

山田教育長 相次ぐ不祥事の中で、採用試験できちんとチェックができていないのかという御質疑だと思います。

正直言って、採用試験の中で、不祥事を起こす兆候を見抜くのはなかなか難しいかと思えます。今回の処分を受けた3人は、40代、50代の教員で、最近、志願倍率が低下して教員の質が落ちているんじゃないかという話があるけれど、この年代はものすごい倍率を勝ち抜いて教員になった方で、それでもやはりこういう不祥事を起こす。小中高の教職員全部で1万人近くいるけれど、その中でどうしても一定の割合でそういった魔が差した、あるいはこういったことを犯してしまう教職員が出てくる。致し方

ないとは言わないが、何としてもこれは防いでいかないとはいけないけれど、採用の段階で見抜くよりも採用した後の研修、全体研修あるいは職場の研修できちんと言って聞かせる。こういった事例を具体的に各教職員に知らしめて、こういうことをするとどうなるかも含めて、しっかりと認識させることが大事と思っています。

本当に情けない限りで、再発防止を本当に一生懸命やらないと、教育に対する信頼が失墜していき大きな影響が出てくるので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

麻生委員 以前から、これは明らかに刑法犯で弁済すればいいという話じゃないはずです。公務員としてあるべき姿は当然のことであって、法を犯しているわけです。どの法律をどういふふうに犯したから、刑事告発をしっかりと大分県教育委員会がやれば、明確な判断基準が法にのっとって出る。それに伴って処分基準が明確になるけれど、曖昧な中に隠蔽体質で徹底的に押さえ込み続けている問題意識が、以前の刑事問題、大分県教育委員会問題から全く改善されていないのがこの現実じゃないですか。これはどうやったら改善するんですか。これを続けているのなら、教育委員は全員首ものです。教育委員は全員首ですよ。その辺の重みはどう考えていますかという話です。

以前から、刑法犯として明確な処分基準がないんでしょう。弁済したらいいんでしょう。弁済したけれど、1番はこういう理由で免職、2番の場合は何故3か月。3か月の基準はどうなっているのか、その基準表を出してください。明確な基準表を。課長、それはあるんでしょう。

神屋教育人事課長 処分量定について、県の基準の中で明確に量定までは、何月まではありません。ただ、基準、人事院の指針、県の今までの処分例、それから全国の処分例を見た上で、顧問弁護士に相談しながら、総合的に判断して量定を決めています。

麻生委員 ならば、教育委員会会議で当然最終処分を決定したと思うので、その量刑や判断基準等をどのように決定していったのか、議事録の提出を求めます。

清田委員長 議事録を出せますか。

鈴木教育改革・企画課長 今の教育委員会会議の議事録の件について、人事に関する案件については通常非公開とさせていただいています。議事録公開の取扱いについては、少し確認させていただければと思います。

麻生委員 議事録が出れば明確になるけれど、曖昧な基準、これは量刑も含めて基準が曖昧であることは指摘します。その曖昧な基準の下で刑事告発もしない。その場限りの取扱いを今後もするのであれば、また同じことが繰り返されるから、そんなことは我々委員会としては許せない。委員として許せないことは指摘します。

山田教育長 麻生委員の御質疑について、1番と2番の端的な違いを申すと、私どもが一番重要視したのは、1番については着服したお金を私的に使ったことです。2番の停職については委員会資料に書いているとおり、お金をプールして部活動で使用するタイマーを購入、購入じゃない。要は、部活動で使うお金がなかなか足りないのです、こういった形でお金を捻出——これも立派な横領だけれど、こういった形でお金を集めて部活に使おうとしていたところで、私腹を肥やしたのか部活のために使おうとしたのかの違いが、この二つの一番大きな部分です。

告発に関しては、保護者会や被害者の意見も聞いて、被害者や保護者会の皆さんがそこまでするつもりはないという御意向を示した。告発すると、保護者会への取調べやいろんな負担も出たり、部活の教員にいろいろお世話になったというのも多分あると思います。

部活動の問題は、顧問が相当手出しや立て替えをしているという実態もある中で、公費と私費が一体となっている部分があるような現実もある中で、今回の2事件について、大分県教育委員会として、他県や過去の事例も考え合わせて均衡を見ながら、正直、厳しく対応したつもりでいます。

麻生委員 いろいろ説明を受けても、それは教育委員会の論理、教育委員の論理かもしれない。だから、しっかりと第三者である刑事告発して、その結果。だって、二重請求になるわけ。もう

明らかに違法じゃないですか。違法行為をやっている教員が現場にいることについて、どのような基準で処分基準を決めていくかを第三者が明確に出せば、その基準にのっとってこう出しましたということを説明できればいいわけで、そこまで処分環境が整っていないことを強く指摘したいと思います。

末宗委員 ちょっと関連でいい。

僕は山田教育長の意見を聞いたから、処分の内容は分かった。さきほど、議事録は出せないとか何とか。ここにおちよる委員はチェック機関よ。チェックの権限があるだけ。ほかにそんなにない。その委員会に対して、出せるも出せないもない。議事録は全部出せ。

鈴木教育改革・企画課長 御意見ありがとうございます。

ただこの点について、我々で規則やルールを設置というか準備しているので、そちらに基づいての判断になります。

末宗委員 ほんなら委員会決議でせんと悪いか。委員会決議で全部出すこと。何ととっても、ここはチェック機関じゃからね。チェック機関の者に対して失礼じゃないか。

鈴木教育改革・企画課長 御意見の趣旨については理解するけれど、他方で、我々としても情報を出してもいいものや出してはいけないものについては、一定の規則や基準に従って行うこととなります……（「ほんなら、俺が今から全部チェック機関として言う。あなた、何課長か」と言う者あり）

清田委員長 いや、少しいいですか。一応、出せる出せない法律のところを……（「法律じゃない。チェック機関だから、議会は全部できる」と言う者あり）いや、もちろんそうですけれど、一応確認をしたい申出ですから……（「議会で決議したら、全部出せるじゃろうがや」と言う者あり）その確認をしていただき、対応をまた聞いて協議したいと思います。（「手順を。秘密会とか」と言う者あり）（「議員はチェック機関じゃから。ほかに何の権限があるか。それに対して出せれんなんか、とんでもないよ」と言う者あり）では、よろしいですか。これで最

後です、最後にしてください。

吉村委員 お二方が言っていることはもったもななことだと思います。あつてはならないことだけれど、さきほど山田教育長が言った部活動に関わって、教員が自腹を切ることはよくあることです。例えば、ユニフォーム一つとっても自費でやっている。そして遠征に行ったら、いくら子どもにということはある、ジュースを買ってあげたり。それはそれで、大半の教員はそれを惜しいと思ったことはないと思分思います。

ただ、部費として集めている、何らかのお金を徴収しているときにあつてはならんけれど、そこがごっちゃになってしまっている状況がこれまでやはり一定程度というかそんなに多くはないけれど、あつたのではないかと思っています。

それがあつていいはずはないけれど、そういう意味で二つだけ。部費の会計について、通知等も出されていると思うけれど、ここはきちっと徹底することを教員に求めなきゃならないこと。それから、さきほど言った自腹を考えたときに、どこまでが公費でどこまでが私費かが学校の中でずっと曖昧になっています。公費で出せるものは、一度研究していただきたいと思分います。よろしくをお願いします。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 委員外議員の方は、質疑等はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかに質疑もないので、以上で諸般の報告を終わります。

この際、ほかに何かありませんか。

玉田委員 この際ということで、学校のBCPで、今回、南海トラフ地震の被害想定の見直しが有識者会議でなされる中で、避難に関する対応は取られていると思分います。被災した学校の子どもがどこで学ぶのか。それから、例えば避難所になった学校の子どもがどこで学ぶのか、どういう学校生活を送るのかについての計画は今策定されているのでしょうか。

松村学校安全・安心支援課長 御質疑ありがと

うございます。

県立高校については、危機管理マニュアルを全ての高校で作成しています。その中で、避難所の開設に関わること、そして学校の再開に関わることも記載しています。

ところが、学校によっては、玉田委員から御質疑いただいた学校再開に関する内容が薄い部分もあり、年に1度、全ての県立高校のマニュアルを我々は点検・指導しているので、その中の好事例等も含めて、ほかの高校に広げていき、学校再開の徹底に向けて、危機管理マニュアル等を毎年点検していこうと思っています。

玉田委員 分かりました。

薄いということは、多分全校は取られていない、全校で策定されているわけではないという理解でいいですか。（「はい」と言う者あり）今、県立高校の話があつたけれど、県下の義務教育の小中学校はどちらの担当になるんですか。**松村学校安全・安心支援課長** 市町村の学校については、各自治体が担当しています。

玉田委員 もう最後にします。

そこに教育事務所は関わっていないんですか。**松村学校安全・安心支援課長** 基本的に各自治体と学校で進めており、その状況について、教育事務所が学校訪問等で確認しているところです。（「そうですか、分かりました。ほとんどやっていないということで、分かりました」と言う者あり）

岡野副委員長 直接的にどの項目にも当てはまらないので、ここで少し要望です。

さきほどの安心院高等学校の件で、今、受入体制の強化、さきほど末宗委員からもあつたけれど、普通科高校の中で、総合選抜制の高校だと産業系の高校で、安心院高等学校に今回視察して、総合型選抜で大学入試が大きく変わってくる可能性、進路の可能性を非常に見せていただいたのが率直な感想でしたので、これからそういう早い段階で目的意識を持った子がすごく集まってくると思分います。むしろ、そこの受入体制を強化することは今後の県立高校として非常に重要だと思うので、久住高原農業高等学校は寮があるけれど、日田林工高等学校も林業科

含めトータル的に是非考えてほしい項目として要望させていただきます。

猿渡委員外議員 時間が下がっている中で、すみません。

南石垣支援学校の跡地について、地域の方からいろいろと要望や声をいただいています。地域の公民館が狭くて2階が使いづらい、駐車場がない、学童保育がいっぱい、児童館がないこともあり、地域の大人や子どもが集える場所、使える場所として、是非南石垣支援学校の跡地を活用できないかという御意見をいただいているので、今後そういう地域の皆さんの意見を聞いていかせる形で考えていただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

深藏教育財務課長 南石垣支援学校の跡地ですけれど、前年度末に県庁全体で何か活用の要望がないかを聞き取ったときには、県庁の中ではありませんでした。現在、別府市に何か活用のめどがないかを検討いただいているところです。その中で、今言われた内容も関係してくるかと思えます。

清田委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 ほかにないので、これをもって教育委員会関係の審査を終わります。

執行部はお疲れ様でした。

委員の皆様は、この後協議を行うので、このまま御着席願います。

〔教育委員会、委員外議員退室〕

清田委員長 それでは、内部協議に入ります。

まず、閉会中の継続調査についてお諮りします。お手元に配付のとおり、各事項について閉会中、継続調査をしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

清田委員長 御異議がないので、所定の手続を取ることにします。

次に、県外所管事務調査についてです。事務局に調査行程案を説明させます。

〔事務局説明〕

清田委員長 ただいまの説明のとおり、この行程表案で実施することとしてよいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

清田委員長 それでは、この案に沿って調査を実施したいと思います。今後の調整にあたっては、委員長に御一任願います。なお、都合により欠席する場合や途中離脱を行う場合は、早めに事務局へ連絡をお願いします。

以上で、本日の協議事項は全て終了しました。

この際、ほかに何かありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

清田委員長 別にないので、これをもって委員会を終わります。

お疲れ様でした。